

『上海本』 蒐録 (4)

倉 橋 幸 彦

My Library on Shanghai in Japanese (4)

KURAHASHI Yukihiro

本書目は、先に公にした『上海本』 蒐録 (3) (『大阪産業大学人間環境論集 6』 2007年6月30日) の続編である。

ここに採録した『上海本』 (一部雑誌の特集号を含む) は、昭和7 (1932) 年から、昭和11 (1936) 年を下限とする。

ただし、1932年1月28日に勃発した(第一次)上海事変に関わる書はここには収録せず、『上海事変本』 については別稿に譲ることとする。

なお、I・II・III・IV各項に附した番号は、『上海本』 蒐録 (3) を継ぐ通し番号である。

【1932-1936】

四六版 271頁 函版 1円50銭

I. 上海本

<1932>

90. 新しき上海のプライベート

吉行エイスケ

先進社 (東京)

昭和7年3月25日

◆口絵; 写真4頁: 南京路永安公司の夜景・北四川路ムーン・パレス舞踊場/北四川路の市街戦・事変下の北四川路/ハイ・アライ場・カニドローム競犬場 (フランス租界) /新公園に於けるダンサーの運動会・上海暗の女 | 序 (プロロウグ) 3頁/目次4頁 || 市街戦地域, その他3-10 /上海と戦争の蠱惑11-18 /上海の後部戦線19-27 /上海の暗黒街28-54 /上海飾窓の粹55-71 /フランス租界の風景72-78 /

平成20年3月31日 原稿受理
大阪産業大学 人間環境学部

上海, エロチツシユ・クンスト79-87/上海, 肉体の街88-109/上海・百パーセント猟奇110-130/上海薔薇香の人131-143/上海の随筆144-148/支那の映画界—主にトルストイの復活の脚色とその俳優主演149-152/大世界の女スパイ153-170/支那女のヒトミから171-175/上海のプロレタリア176-184/上海の新種族185-192/香椎レイ子193-196/ハイ・アライ競技場197-205/上海繁華街の機密206-231/上海のベッド・ガール232-242/上海のメーデー前後243-271

* 「序」:「上海事変の発生したとき、僕は病床にあつた。もし健在であつたら当然、戦禍の上海に飛出すところであつた。一九三二年版の大朝の年鑑によると僕の住所は現在、兵火の中心となつてゐる上海市、施高塔路となつてゐる。つまり、僕は生粋の上海人だ。／この一書は現在の上海を追憶するには、あまりに華やかな事象によつて埋められてゐるかも知れない。しかし、以下は後部戦線における上海の華麗な花園であると思つていたゞきたい」。

[参考1]:『言語』:和田桂子「吉行エイスケエエロチツシユ・クンストの行方(p84-93)

[参考2]:初版の影印本あり。

『新しき上海のプライベート』[文化人の見た近代アジア10](ゆまに書房, 2002年9月20日, 11,000円+税, A5版, 函, 和田博文「解説 吉行エイスケ著『新しき上海のプライベート』4頁」

[参考3]:上記和田博文解説:「吉行エイスは明

治三九(一九〇六)年に岡山市で生まれた。本名は栄助。／上海にはそれ以前にも渡航]していると推定されるが、少なくともこの年〔☆1930〕と翌年に、彼は上海に渡り、上海関係のエッセイを数多く発表した。／口絵の八枚の写真は、吉行の上海への関心と、時代性を語っている。／日本軍が総攻撃を開始するのは、本書刊行直前の二月である。「北四川路の市街戦」「事変下の北四川路」の二枚の写真は、時局を生々しく伝えている。／だが本書の目次を見ると、タイトルから戦時色が読み取れるのは、全二一章中、冒頭の三章にすぎない。焼失した北四川路界隈の住宅地に思いを馳せる一方で、蘇州河の南の、共同租界の南京路や、フランス租界の繁華街に、彼は胸をときめかせた。記述が生き生きしているのも、上海の歓楽を記述するときだろう。／上海というメトロポリスは、銀相場によって揺り動かされる経済都市だった。租界を核として成長したこの街は、イギリスやフランス、アメリカやドイツ、日本など、各国人が暮らす国際都市でもあった。阿片・売春・賭博を仕切るのは、政界との関わりが深い秘密社会の青幫や紅幫で、上海には犯罪都市という側面もある。昭和五年には諸分野で左翼連盟が結成され、掃共を試みる蒋介石派と争った。昭和六年には左翼系作家が相次いで処刑される龍華事件も起きる。上海は、ナショナリズムによる排外運動が大きくなるとなる革命都市でもあった。「上海の暗黒街」「上海飾窓の粹」「フランス租界の風景」には、そんな上海の表情が描き出されている。／夜の上海には、旅行者を案内するお決まりのコースがある。四馬路の青蓮閣や、野鷄が群がる大世界、ハイ・アライの競技場は、定番コース

の一つだろう。「上海、肉体の街」で吉行は、それらは語り尽くされていると、「裏道のスナッフ・ショット」を紹介していく。「上海の随筆」によれば、株式市場の仲買人やダンサー、文士やジャーナリスト、さらに「暗黒街の大親分」と、彼は知り合いだった。上海での人間関係を駆使して、夜の街の隅々に入り込む彼の面目が、スナッフ・ショットには躍如としている。／なお「上海、肉体の街」には、パレス・ホテルで毒ガスにより殺害された、無国籍の日本人らしい人物を中心に、作品を書くつもりだという記述が出てくる。この事件を小説化した作品とは、巻末に収録された「上海のメーデー前後」だろう。また本書刊行後に、上海を取り上げた作品として、「爆撃された地点—上海—」(『新潮』昭和一二年一月)がある。

91. この支那人を見る

井東 憲

内外社(東京)

昭和7年5月10日

四六版 300頁 1円20銭

◆目次2頁 || 小説: 怪殺クラブ1-29 / ピストルを食べた女 / 女ばかりの船45-71 / 腐肉の手紙 / 窟に鳴る耳環達83-104 / 世界的変人105-119 / 犯人街建設121-144 / 賭博場前の殺人145-168 / 皆な国境へ行け / 食卓の喜劇185-201 / 中華の牢獄 / この支那人を見る221-300

92. 新上海

江南健児共著

杉江房造編

日本堂書店(文路K227号)

昭和7年6月15日

三六版 262頁 図版・表・地図

1円20銭

[注1]: 杉江房造が「著者兼発行者」。

[注2]: 印刷所は、蘆澤印刷所(海寧路14号)。

[注3]: 版; 大正12年2月25日訂正改版

[注4]: →「I-13」

◆[編者] 例言1頁 / 目次1頁 / 口絵5頁 / 上海交通線路図1枚 || 上海の横顔 / 上海まで / 旅館 / 上海の通貨 / 郵便電報 / 乗物 / 料理 / 上海遊覧 / 娯楽機関 / ダークサイドの秘密 / 新聞と雑誌 / 上海の名産物 / 上海の位置と沿革 / 上海の地理 / 上海の行政 / 上海の公共事業 / 商工業概観

*「例言」: 「本書は東亜同文書院学生二三有志の共編にして旧版を骨子とし島津四十起氏上海案内其他を参考とし調査改版せるもの脱稿後再閲中、上海事変に遭遇し中絶せるものを事変小康と共に視察旅行者急増の為め急ぎ印刷せるもの故不備の点はご叱正賜り度く。又書中美文は村松梢風先生の記事を拝借せる事を多謝す〔☆全文〕」。

[参考]: 『中支』(上海 / 地誌) 『華中』(一般案内13); 「新上海 / 日本堂 / 昭7 / 本書は大正十二年に改正改版が出て居るから、初版は勿論それ以前のものである」。

93. 増補实用上海語

王廷珪

美術工芸製版社出版部

(上海呉淞路大興里900号)

昭和7年6月25日8版

100×146 226頁 大洋1元3角

[注1]:「発行兼印刷者」は小林栄居。

「印刷所」は蘆澤印刷所(海寧路14号)。

[注2]:版;大正8年3月20日初版(「I-15」)

／昭和6年9月15日7版／

◆[村井倉松(在上海総領事)]序2頁／[横竹平太郎(商務参議)]2頁〔☆華文〕／[藤村義朗]序／[王廷珪]序2頁〔☆華文〕／[王廷珪]無題2頁／目録5頁／五声図1頁||散語部<30課>:数目類・人事類・時日類・船車類・地名類・国名類・郵電類・買売類・穀物類・食品類・器具類・店舗類／問答部<30課>

*村井倉松「序」:「外国語の習得には他の学科の際よりも一層良き教師と良き教科書とを必要とすることは今更々々する迄もない。王君と其の著書「实用上海語」とを持つ当地の上海語学習者は此の点で実に恵まれて居るものといはねばならぬ。「实用上海語」が改版の都度。増補改訂せられて「アップ・ツー・デート」のものとなることは王君が廿年の久しきに亘り終始一貫、熱心に教鞭を執られて居ること、相俟て之亦上海語学習者の福祉である」。

*王廷珪「無題」:「日月ノ経ツノハ誠ニ早イモノデ此实用上海語モ発行以来最早六年ノ星霜ヲ閱シマシタ此ノ六年ノ間ニ上海ノ事情ガ幾何程変化シマシタカ例ヘハ租界内ニ於イテハ道路ノ改良サレタ事宏壮ナ建築物ガ沢山出来タ事人口ガ急激ニ増加セシ事等ハ其最モ著シイモノテス様ニ六年前ト

比較シテ一切ノ事情ニ大変化ガ有リマシタ就イテハ此ノ上海語読本モ自然改訂ノ必要ヲ感ズル事切実デアリマシタニ因シテ先頃来朝夕ノ暇ヲ偷ンデ上海生活ニ緊要適切ナ言葉ヲ蒐集シ従来ノ内容ヲ補足スルト共ニ新シ散語及会話ヲ十課宛増加シテ改版スル事ニ致シマシタ」。

94. フィータム報告(上編)(上海租界行政調査報告)[満鉄国際叢書第四編]

木内五郎訳

南満州鉄道株式会社調査課

昭和7年8月30日

菊判 375頁 非売品

[注1]:「編輯兼発行人」は伊藤武雄。印刷所は、東亜印刷株式会社大連支店。

[注2]:→「I-96」

◆凡例1頁／[伊藤武雄]緒言3頁／[リチャード・フィータム]上海工部局議長への書翰4頁／フィータム報告概目5頁／目次9頁||第一編:緒言;調査の起源・調査の範囲・調査の方法・報告の一般計画と配置／第二編:外国租界と其の政治—沿革及び説明;上海の簡單なる記述・租界の起源と發達・一八五四年以後土地章程の沿革・現行土地章程に具現化された市憲法・租界内の中国居留民と法律の支配・中国人の代表権・租界政治下の中国人の地位・租界行政の範囲と組織・租界内の裁判所・言論、公表及び出版の自由・隣接区域の政治制度

*伊藤武雄「緒言」:「本報告書(Report

of Hon. Mr. Justice Feetham, C. M. G. to the Shanghai Municipal Council) の由来並に価値については、在奉天、盛京時報社長佐原篤介氏の小生に宛たる左の書翰に依り明かなる如く、上海市政解明の最も権威あるものである。」／『一九二七年ホノルルに於て開かれし第二回の太平洋會議に、英国は始めて其の代員を送り、其の節上海に関する問題を討議せり。其の節米国の代表の一人Professor Hornbeck現華盛頓國務省極東局長は、上海の市政問題(Municipal Problem)全体につき慎重に調査研究するの要を主張せり。此の主張がFeethamを招聘するの端緒となりし次第にして、一九二九年京都に開かれたる第三回の太平洋會議に於て再び上海問題が討議せられしが其際上海より上海租界綱領につき説明し得る代員を招くことを可とするの議出で、遂に太平洋會議の中央理事会々員Jerome Green氏は当時列国共同居留地の事務総長(general administrator)たる米国人Fessendenを米国代員の一人として京都に來り會議に出席せり。其の節Fessendenは上海列国共同居留地の工部局(Municipal Council)は局の意響として、在來何等の偏見を有せざる人物たるを条件として市政に関し、又た行政は(Politicalは此にては政治と申すよりも行政と訳した方がよいかと思はれます—佐原)及び法理に関し必要なる經驗を具備せる人を招聘して、上海の問題を調査研究せしめ、工部局に対し此の問題を如何に解決すべきかの意

見を示さしめんとする考ありと語りたり。／右會議の後、Fessendenは工部局の中国人參事の同意を得て、Feethamを招聘することとなり、南阿のGeneral Hertzogに公式に右招聘を申請し、Feethamは直ちに南阿プレトリアより出發し、昭和四年十二月十三日ダーバン(Durban)より汽船にて上海に向ひ、昭和五年一月十三日に上海に無事到着し直ちに其任に就き、調査、研究に従事し、昭和六年四月廿三日、当時の上海列国共同居留地工部局の參事會議長たりしBrig-Gen. E. B. Macnaghten宛にて完成せる右報告書を提出したり。／此の報告書は三冊より成り、其の報告は十分に権威ある学者の研究の結果として一般に之れを賞賛し居れり。／但し各方面の批評もあり、支那の学者の所説もあり。昭和六年の第四回太平洋會議の支那の学者の所説もあり。昭和六年の第四回の太平洋會議の支那代表の一人、夏晋麟氏は會議の本會議中に、Feetham報告書に関する批判の講演をせり。又英国側よりは、(Lionel Curtisの申出により)昭和六年九月号の英文月刊誌“The Round Table”に掲載された『上海』に関する論文を『ディタ・ペーパー』中に加へ、参考に供されたり。／尚、Feethamの報告中、第三冊目(第六編)の居留地外の地域(External Roads Areas)は、日本の満洲に於ける満鉄附屬地拡張並に附屬地外に於ける日本の警察権等の説明をなすに引用して頗る参考となるべきなり。』／本書翻譯は在上海、木内五郎氏の手により、

編輯校訂事務は調査課員長谷川泰造氏の手によつたものである」。

[参考]：『中支』（上海／政治）：「昭和7-8／4冊／南阿連邦判事フイーナムが上海の列国共同租界の行政，立法及実業の過去現在及び未来に就て1年余を費して研究したその報告書の全訳である」。

『華中』（法政租界問題294）：「昭和7-8」。

95. 支那現代婦人生活

澤村幸夫

東亜研究会（東京）

昭和7年10月1日

四六判 73頁 図版 50銭 オビ

[注]：「編輯兼発行者」は磯部栄一。

◆口絵：写真4頁；映画女優胡蝶・紫羅蘭・梁賽珍・流行を作る百貨店の一たる先施公司・中西女塾の五月祭の先頭隊・救国義勇軍閱兵式・銃後のガールズガイド・前線の女子義勇軍／目次3頁
家庭における妻妾／職業婦人8-18／上海女学生の一断面18-24／摩登小姐24-29／目まぐるしい流行30-36／女流作家生活／映画女優その他42-46／女工・阿媽・娘嬢46-53／揚子江の漁婦53-58／牛馬に等しい農婦／附録：女学生義勇軍65-72，「あとがき」72-73

*「あとがき」：「昭和四年の夏から，今年一七年の夏まで，まる三年間を大阪毎日新聞特派員として上海にくらした。最初の第一年は無事だったが，第二年には抗日運動が次第に激しくなり，第三年にはとうとう

上海事変が発生した。その日の食事にも，燃料にも窮し，便衣隊の狙撃をもうけたことがある。ひどい目にあつたが，よき体験であつた。いよいよ大阪の本社にかへることに決した際，たまたま，東亜研究会から大衆的なものを執筆してほしいとの来状に接したから，事変に関するものではないが，喜んでお受けし，引揚げの荷造をはじめる一方，直ちに一文づゝ起稿し，連絡船長崎丸の上でも書きつゞけた。上海を記念するために好き機会を与へられたと思つたからである」。

*「オビ」：「大阪毎日新聞社東亜部顧問／東亜調査会専任理事／澤村幸夫著／支那婦人生活／東亜研究会発行／現代支那女学生は，職業婦人は，映画女優は，女流作家は，家庭の妻妾は，いかなる生活を営んでゐるか。漁婦，農婦は，いかに労苦してゐるか。この書は，それ等を明快に解説する」。

96. フィータム報告（中編）（上海租界行政調査報告）〔満鉄国際叢書第五編〕

木内五郎訳

南満州鉄道株式会社調査課

昭和7年11月5日

菊判 346頁 非売品

[注1]：→「I-97」

[注2]：「故佐原篤介大人に捧ぐ」一枚付す。

◆〔伊藤武雄〕緒言3頁／フィータム報告概目4頁／目次9頁 第三編：上海に於ける実業

関係：緒言・上海港・商工業中心地としての上海・銀行業及び財政の中心としての上海の地位・上海保有と地価・安全の基礎／第四編：政治問題及び行政問題に関する陳述と其の批評；中国諸団体の陳述・租界内に於ける宣教師団体代表の意見・産業状態の統制，婦人団体連合委員会の陳述・公共衛生・租界政治の特徴と其の功過

97. フィータム報告(下編)(上海租界行政調査報告) [満鉄国際叢書第六編]

木内五郎訳

南満州鉄道株式会社調査課

昭和7年11月25日

菊判 255頁 非売品

◆ [伊藤武雄] 緒言3頁／フィータム報告概目4頁／目次8頁 || 第五編：租界の将来に影響する主要問題；主要問題・工部局の地位と責任・租界内に於ける中外団体の態度・還付・租界制度に影響を及ぼす治外法権・租界の憲法に対して必要な改革案・中国人の教育其他の事項に対する財政施設・工部局の権限と同国の列国代表並に中国官憲との関係・裁判所に関する提案・国際協同；上海工部局議長宛の書翰／第六編：越界道路区域；緒言・越界道路制度の起原発展・現状と其れに伴ふ利害関係・将来に対する提案

<1933>

98. 新上海夜話

井東 憲

博栄堂書店(大阪)

昭和8年2月20日

117×165 218頁 1円50銭

[注1]：表紙カット：井上正春

◆目次1頁 || 土豪劣紳の地下室5-24／鳩の春25-41／海に踊る／魔都の秘密地図；犯人の街(上海)51-58／上海合奏曲71-87／愛憎臍／窟に鳴る耳輪達120-138／黄包车物語139-159／新上海夜話160-168／蕎麦殻事件／ハルピンの結婚式／ハロウ世界の恋人

[参考]：『言語』：大橋毅彦「井東憲一〈朦朧都市〉上海と〈情報都市〉上海のあわい(p55-64)

99. 河端貞次氏伝

上海居留民団

昭和8年5月30日

菊版 421頁 函版 非売品 函

[注1]：上海居留民団は、「編纂兼発行者」。印刷所は、蘆澤印刷所(海寧路14号)。

[注2]：『上海事変誌』別冊附録。

◆ [植田謙吉(第九師団長)] 追憶4頁／[重光葵(前駐華特命全権公使)] 序2頁／[村井倉松(前上海総領事)] 序2頁／[安井源吾(上海居留民団行政委員会長)] 序5頁／口絵15頁／例言3頁／家譜5頁／河端貞次年譜6頁／目次5頁 || 第一編 本伝／第二編 遭難事情と民団葬／第三編 後事其他／第四編 祝辞演説遺稿等／第五編 近親知己の懐旧談；[児玉謙次(生金銀行頭取)] 故河端君の追憶／[櫻木俊一(前行政委員会議長)] 公人としての河端君／[福

島喜三次（前市参事会員）] 故人河端貞次氏に就いて／[池田重雄（前民会議長）] 河端氏の思ひ出／[林雄吉（各路連合会委員長）] 経綸の才／[向谷能太郎（民会議員）] 亡き河端貞次君の思出／[友野盛（民団書記長）] 故河端行政委員会長の想出／[大槻茂（民会議員）] 丸い卵も切り様で四角
 協調第一の河端主義／[秋田康世（上海日本医師会会長）] 医師会役員及看護婦学校長としての河端氏／[近藤光] 近親会々長としての河端氏／[太田俊三・杉本久太郎] 河端氏と上海信用組合／[岡島末太郎（大阪人会幹事）] 大阪人会と河端氏／[篠田宗平] 河端先生を憶ふ／[三浦南星（民会議員）] 吾等の大黒柱 故河端民会長を憶ふ／[石井礼（北部小学校長）] 其朝の河端会長／[小西永吉] 河端氏と大興土地信用組合／[池田清之助] 故河端氏来滬事情に就て／[長田實] 河端氏渡滬当時の事情／[中野督一] 故河端貞次先生／[佐々木大助] 故人の思ひ出／[中島普佐吉] 母と児／[原田助市] 私の眼に映じた河端先生／[友永伝次郎] 故人への追憶／[安井源吾（行政委員会会長）] 故人の逸話／[光村芳蔵] 故人の逸話／[須藤五百三] 医者より観たる河端氏／[児玉英蔵（民会議員）] 友人としての河端氏／[小泉茂一] 河端氏の追懐／[竹下逸平] 追憶／[石田末次郎] 故河端先生を想ふ／[川崎なみ子] 御家庭の事ども／[谷口ツネ子] 家庭に於ける河端先生／[津島文] 御臨終の思ひ出／[内山完造] 読書の人／[菊池松子] 河端先生と義太夫／[一木敏之] 河端先生の面影寸片／伝記編纂に対する感謝の辞 〓
 附録

100. 上海風俗誌

THE LIFE OF SHANGHAI

田中良三

尚美堂（東京）

昭和8年8月28日

四六倍版

[注1]：田中良三は「著作兼印刷発行者」。

[注2]：「発売所」は、華和公司（呉淞路62号）と長澤写真館（呉淞路54号）。

[注3]：定価記載なし。

[注4]：→改訂再版（昭和12年12月）

◆ [上海風俗の簡単な解説] 4頁；緒言／上海婦人／学校と学生／交通機関／運搬機関／茶／街頭の商人／吉凶／窮民／捨子受け所／両替／警備と消防／衛生／公園 〓 写真集36葉；上海バンド・上流婦人の散歩／芸妓・中流夫人・女学生の散歩／マーケット帰りのおかみさん・女の子供・子供を負ふた女／路地内の中学校・男学生・女学生／長屋の生活／労働者相手の食物販売・簡易食堂／折り畳式の書店・竹垣を利用する着物屋・ガラクタ屋／街道の裁縫女・自分の全身を陳列台にして雑多の物を歩く女／郊外農家の女のわらじ売り／見世物小屋・街頭の理髪師・西洋鏡／宣伝上手の歯医者・所謂愛好者の屋外演説会／移動する路傍の百貨店／黄浦江上の各国警備艦・日本陸船隊の観兵式／防弾チョッキ着用の非常巡査・租界外の巡査・安南巡査／騎馬の印度巡査・民国の兵隊／火事場・呉淞路沈家湾消防隊の演習／無軌道電車／二台連結の電車と危険注意／交通巡査／交通信号塔／小車で人を運ぶ・小車で荷物を運ぶ・小車の車体／黄包車（人力車）挽きの顔・荷役する苦力／日支連絡船の入港・税関の検査／漁船・黄浦

江の通ひ船・黄浦江面／麻雀でばくち・苦力(人夫)は一寸の休みにもばくち・小供等も集まればばくち／茶館の内部・茶湯の行商／茶の接待／質屋・両替屋・酒醬油屋／百貨店大売出の外飾り・普通の小売商店／銀樓の家・衣類のせり売り／虹口マーケット・虹口マーケット花屋の方の入口／喜びの門前の飾り物・花嫁用の駕子／葬式を飾る絹傘・棺・喪主を隠くす白幕張／捨て児受けの引出し・貧に迫つて子供を売る／窮民全家が一小車で移動す・貧民窟／乞食・ゴミ拾ひ・糞囃頭／阿片を吸う人・阿片吸飲道具／上海大競馬／日本人住宅区／公園(新公園・ゼスフイルド公園)のおもかけ

<1934>

101. 白川西本君伝

上海雜誌社

昭和9年7月1日

菊版 150頁 非買品

[注1]:「編纂者」上海雜誌社(北四川路安慎坊27号)の代表者は、山田儀四郎。

[注2]:「発行者」は蘆澤民治、印刷所は蘆澤印刷所(海寧路300号)。

◆[鄭孝胥(満洲国國務総理大臣)]序文(漢文)1枚／口絵7頁／[有吉明(駐支公使)]序2頁／例言2頁／目次2頁||略伝／近親諸名士の追憶逸話書面新聞記事等／遺稿

*「例言」:「本書の出版は、故人と関係特に深かりし蘆澤印刷所主蘆澤民治氏(旧春申社同人)の主唱により且つその出版費は全部同氏の出資によるものであり、材料の

蒐集及び編纂は凡て「雑誌」上海主幹山田儀四郎氏に当つた」。

102. 活用上海語

大川與朔

至誠堂書店(上海吳淞路461-463)

昭和9年7月25日5版

三六版 218頁 銀50銭

[注1]:「発行者」は出光衛。出版社は蘆澤印刷所(海寧路14)。

[注2]:版;大正13年7月25日初版/同14年11月19日再版/昭和4年1月10日3版/同4年4月10日4版/

◆内容は〔I-36〕に同じ。

103. 上海の貧民相[東亜研究講座第58輯]

井上紅梅

東亜研究会(東京)

昭和9年8月5日

四六版 52頁 30銭

◆目次1頁||貧富の懸隔／廢船草棚生活／農民の窮状／裏店生活／インテリの間借生活

[参考]:「中支」(上海/社会統計)『米澤』『華中』(歴史地理150)『言語』:「上海における下層民の生活相を、「廢船草棚生活」・「裏店生活」・「インテリの間借生活」の三段に分けて実状を紹介しているが、その語り口はいたって平易、統計や図表はないけれども、上海生活長きにわたる井上の眼は、貧民の生態の特質をおのずから射抜いている。／換言すれば、井上の関心は、貧民相の問題を抽象化して論じるよりも、風俗のディテールに向かう。そのことは、彼が採集した、娼妓の境遇を擲

掄した土方歌の歌詞を紹介している点からも確かめられよう。さらには、馬桶屋・研師・ワントン屋らが奏でる、彼らの生の息遣いを伝える音楽も、この書からは聞こえてくる（大橋毅彦）。

104. 上海を中心とする 長江流域邦人の発展策

上海日日新聞社

昭和9年12月17日

菊版 86頁 銀35仙

[注1]: 上海日日新聞社（乍浦路455号）は、「編纂者」兼「発行者」。

[注2]: 印刷所は、蘆澤印刷所（海寧路300号）。

◆序1頁／懸賞論文審査員1頁：横竹平太郎（日本公使館附上海駐在商務参事官）・安井源吾（上海居留民団行政委員会会長）・山本武夫（上海共同租界工部局市参事会員）・日本郵船株式会社上海支店長）・吉田政治（上海日本商工会議所副会頭）・三菱銀行上海支店長）・卜部卓江（三井物産株式会社上海支店長）・田邊輝雄（日華紡織株式会社取締役社長）・甘濃益三（上海日本人各路聯合会々長）・久重福三（東亜同文書院教授）／目次2頁
|| [米澤秀夫] 壺等当選論文／[船井倉一] 二等当選論文／[丸山確] 三等当選論文

*「序」:「本書は吾が社二十周年記念事業の一つとして、上海を中心に長江流域へ発展せんとする論文中より最も適切妥当にして、実践の可能性あるものを三稿選び、一冊に収めたるものにして、現在及将来南支方面に投資企業せんとする人々には。實際的の指針となり又内地に於ける対支経済関

係の人々にとりても得難き参考書として裨益する処少からざるべしと信ず」。

[参考]:『米澤』『華中』（一般案内15）

<1935>

105. 上海

横光利一

書物展望社（東京）

昭和10年3月15日（決定版第一刷）

菊版 342頁 2円50銭 函

◆序1頁 || 上海（長篇小説）

*「序」:「この作品は私の最初の長篇である。私はそのころ、今とは違つて、先づ外界を視ることに精神を集中しなければならぬと思つてゐたので、この作品も、その企画の最終に現れたものであるから、人物よりもむしろ、自然を含む外界の運動体としての海港となつて、上海が現れてしまつた。昭和七年に私はこの作を改造社から出したが、今見ると、最も力を尽した作品であるので、そのままにしておくには捨て切れぬ愛着を感じ、全篇を改竄することにした。幸ひ書物展望社の好意により、再び纏めることの出来たのを悦ばしく思ふ。この書をもつて上海の決定版としたい〔☆全文〕」。

[参考]:『言語』

106. 上海居留民団名誉職及民団関係職員 名簿(昭和十年六月一日現在)

上海居留民団(上海崑山路128号)

昭和10年6月

四六版 34頁 非売品

◆上海居留民団；参事会員／民会議員／會計検査委員／民団吏員／上海居留民団立診療所(靶子路250街19号)／日本人墓地火葬場(閘北横浜路1 囗白字圩)／上海居留民団立日本尋常高等小学校(北四川路961号)／上海居留民団立東部日本尋常小学校(平涼路1465号)／上海居留民団立西部日本尋常小学校(膠州路601号)／上海居留民団立中部日本尋常小学校(靶子路86号)／上海居留民団立日本高等女学校(施高塔路20号)／上海居留民団立日本実業学校(北四川路961号)／上海居留民団立日本商業学校(平涼路2103号)／上海居留民団立学校医／上海居留民団常設委員会委員；学務委員／衛生委員／課金調査委員／土地価格調査委員／課金異議審査委員／土地価格異議審査委員／復興資金審査委員／上海居留民団臨時研究委員会委員；法規研究委員／対外交渉研究委員／税制研究委員／社会施設金融機関研究委員

107. 上海声音字彙

稲葉鼎一郎

日本堂(上海呉淞路356号)

昭和10年8月5日

三六版 165頁 表 1円50銭

[注]：印刷所は、蘆澤印刷所(海寧路300号)。

◆序1頁／例言・五声・無気音・有気音・発音6頁 Ⅱ 上海声音字彙1-110；発音解説：冒頭1頁／燕滬声音比較編1-51；凡例・変化通則1頁

*「序」：「本書は 上海語の権威者 王廷珩先生の口述を其発音通りに 編輯したものであります／先生の口から私の耳に それを整理して行つたので 聞き違ひ 書き誤り 間違ひも多く 正鵠を失して居るものが多々有ると思ひます」。

*「例言」：「上海語は中支那海岸地方を代表した一土語である，九十年前開港されて以来，当時の一県城が現在人口三百五十万，集まる人種四十八の一大国際都市に膨張したので，元来の土語も変化に変化を重ね，混合し集成して来たから，声音も多種多様で，今に於ても統一された標準語が無い，二三先輩の著書はあるが区区であり肯定し難い記述が多い。／王廷珩先生は蘇州の名家，在滬三十余年，三井洋行に勤務の傍ら，各学校会社に多年上海語を教授され在滬邦人は殆んどが其の生徒である。詩文に長じ，画は王一亭先生の後継者を以て目され，篆刻まで上手である。而も日本語は自由自在で支那人放れがして居られ，北京官話は勿論自由に話される。此先生の声音は上海語の標準として最も適切なものと推薦する」。

[参考]：『華中』(言語343)

108. 大上海 要覧・案内

濱田峰太郎

上海出版社（上海海寧路300号）

昭和10年10月10日

四六判 346頁 図版・地図

銀1弗20仙

[注1]：濱田峰太郎は「編輯兼発行者」。

[注2]：印刷所は、蘆澤印刷所（海寧路300号）。

◆口絵：最近の上海（黄浦江を隔てて浦東より黄浦灘路を望む）写真1枚／目次4頁 || □大上海要覧；大上海の概要／大上海の輪郭／大上海の行政／大上海の解剖／「大上海要覧」附録／□上海案内；上海の名所旧跡／遊覧地・上海／上海一般事情／上海市街地図1枚

[参考]：『中支』（上海／地誌）『米澤』『言語』：「濱田峰太郎は、新聞記者時代に上海で様々な実話を収集している。「密輸に絡まる犯罪実話」として、阿片にまつわる殺人談や怪談実話を『犯罪科学』（一九三一年一〇月）に寄せ、一九三二年には上海事変の記録報告書として上海事変の記録報告書として『上海事変』（上海日報社）を編纂した。／一九三〇年代半ばには、上海の在留邦人の数も二万人を超え、彼らの生活に便宜をはかったり、新しく参入する者たちの手引き書となる書物が求められたのだろう。濱田は『大上海要覧・案内』で、日本人居留民団の職制や、上海事変によって営業上の打撃を受けた居留民の復興を図るための復興資金の説明に至るまで、微細な解説を行っている。在留邦人の商工業一覧や同業組合の場所と名称、商工会議所の役員名、さらに「町内会」の名称と場所も記されている。料理屋の説明にしても、馴染みのない日本人にわかりやすく書かれており、ビアン

チのマカロニー、ジミーのピフテキ、ヒュッテラー・ブチェリーのドイツビールが日本人好みだと解説している（和田桂子）。

109. 改訂増補 上海港

深田菅治

三井物産株式会社上海支店

（上海四川路185号）

昭和10年10月20日再版

菊版 169頁（附録38頁）

図版・表・地図 銀1弗50仙

[注1]：深田菅治は「編輯人兼発行者」。

[注2]：印刷所は、蘆澤印刷所（海寧路300号）。

[注3]：版；昭和3年12月23日初版（「I-71」）

◆〔岡部六男（三井洋行上海支店受渡掛主任）〕序1頁／はしがき1頁／目次8頁／口絵：上海税関を中心とするバンドの壮観・Garden Bend（蘇州河分岐点に当る上海港中心区） || 第一編 総論／第二編 上海市大勢；上海概要／交通／公用事業／教育、衛生／上海に在る日本諸官衙公共機関／第三編 港湾；概説／上海附近の気象／港内事情／上海港兩岸土地所有者並びに利用状態；上海港岸利用状態明細表／棧橋／其他の倉庫／浮標／荷役／造船所／其他の海運補助施設／第四編 税関；総説／船舶関係／税金関係／通関事務関係其他／上海港々則及び港政其他／第五編 貿易；上海港の貿易／上海港に集散する貨物の量／上海貿易と蘇州、杭州海関／支那貿易港としての上海の新傾向／上海輸出貨物の輿地よりの集散状態／上海輸入貨物の移動状態／第六編 海運並びに空陸水運；海運／上海を中心とする近海航路船／上海寄航の遠洋航路社名及び航海数／陸運、空運其他／第七編 金融及び工業；金融／工業／第八編 結論；世界交通幹線上に在る上海港／太平洋時代の出現と上海の将来／日滿支関係の現状と将来への希望 || 附録38

頁：大上海港地図／鉄船賃率表／陸揚倉出入賃率表／棧橋倉庫保管料率表／起重機使用率表／曳船使用料率表並びに船客送迎用テンドー料率表

*岡部六男「序」：「昭和三年時の受渡掛主任織岡氏が深田君に「上海港」を編纂せしめ出版せらるゝや店内外関係者の参考となる所少なからざりしがその後事情の変化は本書改訂の要を認め再び深田君に執筆の労を煩わし茲に再版上梓する事とせり。／本書は主として受渡掛関係者の参考に資せんとするものにして収むる所は海運、港湾事情、税関々係、船舶の取扱及び貨物の輸出入、受渡運送、保管等に関する事項を詳述し其他は簡單なる上海案内の程度に止めたり」。

*「はしがき」：「昭和三年冬当時の受渡掛主任織岡芳太郎氏御指導の下に上海港に関する小冊子を編纂し当時関係先へ頒布したる所不完全な小書乍ら相当御参考となりたる趣にて之が再版を懇請される声を聞き、改版を心掛け材料の蒐集をして居りましたが今夏Sunlight Saving Timeを利用して本書の改訂に着手した所現受渡掛主任岡部六男氏の激励と御指導御援助に依り遂に印刷に付する運びとなりました」。

[参考]：『中支』（上海／交通）：「改訂3版／昭和11／207頁」。『米澤』：「織岡芳太郎編／昭和四年三井物産上海支店刊。昭和十年改訂増補」。『華中』（商業貿易218）

◎ 生ける支那の姿

昭和10年11月30日

◇第二版（「I-110」）奥付による。

<1936>

110. 生ける支那の姿

内山完造

学芸書院（東京）

昭和11年2月20日第二版

四六版 183頁 1円

◆ [魯迅] 序10頁／目次5頁 || 文章文化と生活文化／帮の一つ／小買が割安11-16／生命と権利16-19／三つの根性／一つの習慣23-26／便茶27-31／残飯31-35／も一つの残飯35-38／相互扶助の宴会／人柄が値になる／生活の符号としての文字／株式会社の儲からぬ話55-61／徹底せる實際生活／或る日の商談67-73／支那人は利己主義か73-78／鐘の音／賭博の概念／モスリンの話89-93／料理屋の二色94-99／商品に就いての注意99-103／儉と落104-110／天井の話111-118／木と竹／打込まねばダメだ123-129／福祿寿／綁縹137-143／行詰りが無い話143-149／殉教の話150-157／礼を云ふと親切が消える158-164／労資協調164-170／支那人生活／針の先と拳骨

*魯迅「序」：「著者は二十年以上も支那に生活し各地方に旅行し各階級の人々と接触したのだからこんな漫文を書くには実に適当な人物であると思ふ。論より証拠その漫文も確かに一異彩を放つて居るではないか。自分も時々漫談を聞きに行くから実は

ほめたてる権利と義務をもつて居るが併しもう長い間の「老朋友」であるから悪口も少々書き添えて置きたい。その一は支那の優點らしきものをあまりに多く話す趣きがあるのでそれは自分の考へと反対するのである。だが一方著者自身の或る考でやるのだから仕方がない。もう一つは悪口と言へないかも知れないが即ち其漫談を読めば成程と思はせる点は頗る時々出て来る。それも大いによいことではあるが、その成程と思はせる所は詰る所矢張り結論なので幸ひ卷末に『第何章結論』と銘打つて居るものがないから、矢張り漫談にとゞまつて居るのでよかつた。／併しいくら漫談と云つても著者は矢張り支那の一部分の真相を日本の読者に紹介するつもりである。が今の所では依然として色々な読者によつて、結果が違ふであらう。それは仕方がない。自分の考では日本と支那との人々の間はきつと相互にはつきりと瞭解する日が来ると思ふ。昨今新聞に又盛んに『親善』とか『提携』とか書き立て、居るが、来年になつたら又どんな文字をならべるか知らんけれども、兎に角今は其時でないのである。／寧ろ漫文でも読む方が面白いだろう」。

[参考1]: 中文訳本あり。1. 尤炳圻訳『一個日本人的中国観』(開明書店, 民国25年8月, 161頁) 2. 尤炳圻訳『活中国的姿態』(敦煌文藝出版社, 1995年12月, 163頁)

[参考2]: 『言語』

◎ 上海みやげ話

昭和11年4月1日

◇二版(「I-112」)奥付による。

111. 昭和拾壹年民国貳拾五年版 中華全国中日実業家興信録(上海の部)

上海興信所(上海四川路239弄)

昭和11年4月30日

菊版 1397頁 銀12・金15円

[注]: 「編輯發行人」は山本喜一郎。

◆ [石射猪太郎(上海総領事)] 題字 / [岩井光太郎(上海駐在日本商務官)] 序2頁 / [米里紋吉(上海日本商工会議所会頭)] 2頁 / [船津辰一郎(在華日本紡績同業会総務)] 1頁 / [山本喜一郎(上海興信所所長)] 中華全国中日実業家興信録發刊之辭2頁 / 凡例2頁 / 人名索引檢字2頁・人名索引23頁 / 關係事業索引檢字2頁・關係事業索引74頁 || 実業家興信録865頁 / 第二版142頁 / 第三版286頁

* 「中華全国中日実業家興信録發刊之辭」:
「支那人実業家を中心とせる興信録の今日まで現はれなかつたのは、要するにその調査の至難なるを實証するもので、その意味に於て本書の公刊は画期的なものとして江湖に紹介し得ると信ずる。／故に本書は世にありふれたる興信録とは其内容及び目標を異にし、現在上海經濟界に於て活動しつつある中国人実業家の状態を、我對支貿易業者に紹介するを主要目的とし、それ等人物の経歴、經營事業、關係事業を解剖し

以てその人物を把握し、中日両国の商取引を円滑ならしむると同時に、その間に生じ易き不慮の損害を未然に防止せんとする趣旨に拠るものである。／本書に登載されたものは、中国人実業家約二千名、在留邦人約六百名に上り、その関係事業採録三千を超へ、上海経済界人物を網羅すると同時に、商工業の中心地大上海の経済機構を系統的に解剖せるもので「人事興信録」であると共に「商工信用録」たるは本書の一大特長とする所である。

*「凡例」:「本書は昭和十年(民国廿四年)九月より調査、編輯に着手し、昭和十一年三月に完了せり／書中に「二版」「三版」と分類しあるは、調査編輯並に印刷の進行上に便宜の方法を採りたるものなり」。

112. 上海語指南

稲葉鼎一郎

文求堂書店(東京)

昭和11年6月28日

三六版 160頁 1円

◆序1頁／凡例12頁 〓 白話篇 1-52；目次／
単文一／単文二／単文三／単文四／複文
等位文一／複文 等位文二／複文 合文
有属文／平叙文／疑問文／命令文／感嘆文
／動詞の時 未来／動詞の時 現在／動詞
の時 過去／挨拶語 集句／挨拶語 初会
／挨拶語 久違／挨拶語 賀歳／問路／買
物事 | 作文例53-92 〓 日滬小字典67頁

113. 上海自然科学研究所要覽

昭和11年8月15日

菊版 52頁 函版 非買品

[注]:出版年月は、表紙には「一九三六年六月」と記すが、ここでは裏表紙の「昭和十一年八月十五日 株式会社 東京築地活版製造所印刷」の記載に拠る。

◆口絵7頁／目次2頁 〓 目的及ビ沿革／上海委員会及ビ研究所職員／土地及ビ建築物／諸経費／各学科ノ概略及ビ研究事項／研究附帯事項／蔵書／出版物／事務所及ビ附設工場／研究所倶楽部、共存会其他 〓 附:
上海自然科学研究所配置図1頁／同平面図2頁／英文要略8頁

[参考]:『中支』(上海／學術)『華中』(教育文化326)

114. 上海みやげ話

柏木 節

上海美術工藝製版社

(上海吳淞路大興里48号)

昭和11年11月20日二版

四六版 230頁 函版

1円50銭 函

[注]:「発行者」は、小林栄居。印刷所は蘆澤印刷所(海寧路300号)。

◆口絵2頁／[指宿秀彦(中華民国上海共同租界工部局市政総務局次長)序4頁／[小田原憲一(海軍少佐)]序2頁／[武安季春(上海海軍特別陸戦附兼第三艦隊司令部附海軍軍医大尉)序2頁／自序3頁／[小林栄居]発行者のことば1頁／目

次6頁／口絵6頁；上海バンド・字林西報館・蘇州河入口・濁り水の上海 || 濁り水の上海／上海バンドに立つて／国際（寄合）都市上海／上海の警備／市庁工部局と各国領事館及其の人口／第一線に立つ人々／上海のお巡りさん／上海の公園／南京路を歩いて／見るべき邦人事業／其の他の町の景／城内や其他の見物／支那市政府／上海の銭／外国人の勢力／支那人の挨拶／支那ヂヤンク／支那人の請負／上海の言葉／名称のつけ方／土地成金／上海の煙草／逆宣伝／煙草の吸殻拾ひ／女の髪毛抜き屋／支那人の下駄はき／措油／湯売り店／雨乞い／充血もみ出し屋／子供の遊び／支那服／個人主義と同郷愛／乞食／舢板／芸者／支那婦人／商売の懸け／支那人の諦め方／泥棒市／商売の遣り口／路地のカルタ博奕屋／ダンスホール／泣き屋／犬の競争／ハイアライ／活動写真／競馬／芝居／コンプラド／珠算／花火／運転手と車掌／氷倉／門番／畑中の帆／上海の物売り／朝鮮婦人／夏の路地夜景／上海の家賃／青年の力試し石／名附けと許嫁／象牙の箸／拍売／動物の慣らし方／支那風呂／盗賊の又買ひ／無遠慮／貸室に就て／電車の中／赤色に対する観念／支那人の口髭／棺柩と墓／水田の景色／葬式の行列／モードン屋（馬桶）／下流社会／周旋屋の店頭／醜業婦の手びき／馬乳売屋／阿片／精薬店／耳かき売り／支那ウチワ／ニンニク／南京虫／私の見た支那人のエライ点／支那人の目から／苦力生活／日本人相手の商売／上海指して来る女／マツチに就て／黄包車／質屋（当）／胡弓笛売り／上海の朝／支那の文人／みやげ物品名；挿図91頁

戦隊の帰還兵諸士の為に稿を立て係官の許可を経て発表したのではありませんが其後希望者が続出しまして到底謄写刷りの様な物では応求出来ず奮勉以て余暇を利用し各項を訂正し別に珍らしい話を追加の上出版しようと思いましたが尚ほ物足りない物は写真で此れは千言の説明よりも読者に満足を与える事大なるものがあると考へ多年外字新聞社の写真版を引き受けて居らるゝ上海美術製版社主小林栄居氏に相談しました処此の記事に該当する写真の寄贈方を快諾されましたので勢ひ拙文も花が咲き読者諸賢に最高の参考となるは勿論で同氏の義侠を深く感謝する次第であります」。

[参考]：『言語』：「柏木節は中国在住一〇余年。

陸戦隊の帰還兵の、みやげ話の種になればと発表したエッセイが、本書のほぼ半分を占める。おのずから短期滞在者ではなかなか得られない見聞が、随所に盛り込まれた。目次には、髪毛抜き屋・耳かき売り・馬乳売家などの珍しい項目が並ぶ。写真も読者を惹きつけただろう。先端に針のある棒と、布袋を持ち、巻煙草の吸殻を拾う男は、そのあと問屋で金に換える。問屋はそれを材料にして、新しい巻煙草を作り、一〇本入り一函を銅貨五枚ぐらいで売るが、味が悪いことはすでに柏木が確認済み。／需要さえあれば、職業は次々と生み出される（和田博文）」。

II. 上海小冊子（紀要・報告書等）

<1932>

* 「自序」：「本書記載の半数は昨年当地陸

11. 上海邦人工業救済ニ関スル請願書

上海工業同志会

昭和7年1月

菊版 10頁 表

◆ [喜多村貫二(上海工業同志会加盟五十四工場代表)] 請願書1-5 / 上海工業同志会加盟工場一覧6-10

* 「請願書」:「現下ノ対日經濟絶交ニ基ク在支那人中小工業家ノ苦境ヲ救済サレタキ主旨ヲ以テ昨年十月廿七日付上海邦人工業救済低利資金ニ関スル請願書ヲ上海総領事館ヲ経テ大蔵, 外務, 商工, 其他ノ大臣宛ニ提出シタルモ未タ其願意ノ實現ヲ見ルニ至ラス然ルニ事態ハ益々悪化シ救済ニ急ヲ要スルモノアルヲ以テ茲ニ再ビ右ニ関スル請願ヲ提出シ清鑒ヲ仰カントス / 既ニ御了知ノ如ク其後中南支特ニ上海ヲ中心トスル經濟絶交運動ハ毫モ緩和ノ傾向ナキノミナラス却テ抗日会ノ暴行ハ益々深刻ノ傾向ナキノミナラス却テ抗日会ノ暴行ハ益々深刻ノ度ヲ加ヘ其影響ニ依リテ本会加盟工場ハ末尾記載ノ通り五十四工場中事業休止三十三工場ニ及ヒ而モ其大部分ハ資金難ヲ伴ヒ進退兩難ニ陥レルモノナリ其他ノ二十一工場ハ辛フシテ作業ヲ繼續スルモ此等ハ事業ノ性質上邦人及外人ヲ顧客トスルモノ又ハ時期關係ニ依ル貯蔵品ヲ製造スルモノ若クハ極度ニ能力ヲ縮小シテ熟練工ノ散逸ヲ防ク為ニ契約ナキ貯蔵品ヲ製造スルモノ等ニ外ナラス而シテ右モ金融ニ余裕ア

ル限りハ地盤擁護ノ為メ作業ヲ繼續スルモ一町資金涸渴ノ上ハ休業ヲ余儀ナクサル、モノニシテ今ヤ將ニ其時期ニ到達セントスル状態ナリ」。

12. 東亜同文書院新入学生招見式

財団法人東亜同文会

昭和7年4月26日

菊版 19頁 図版 非売品

◆ 目次1頁 / 記念撮影1頁 || 概況1-4 / 訓示: [白岩龍平(東亜同文会理事長)] 5-9 / [坪上貞二(外務省文化事業部長)] 10-12 / [井上雅二(東亜同文会理事)] 13-19

<1936>

13. 上海航路案内

日本郵船株式会社(東京)

昭和11年2月

折本パンフレット 図版・表・地図

非売品

◆ 中国と日本 / 日華交通の今昔 / 上海へ / 上海; 日本総領事館 / 遊覧観光所 / 旅館 / 乗物 / 土産物 / 支那料理 / 海陸空連絡 / 南支の遊覧地; 蘇州 / 杭州 / 鎮江 / 南京 / 日華連絡船利用観光旅程 / 郵船の上海航路 / 日華連絡快速船 / 日本諸港上海間乗船運賃 / 御乗船案内

14. N.Y.K JAPAN-CHINA SAILING SCHEDULE

日本郵船株式会社（東京）

昭和11年10月

折本パンフレット 表 非売品

◆ N.Y.K.LINE Japan-China Rapid Express Service Sailing Schedule for October,1936-March,1937 / S.S. "Shanghai Maru" & S.S. "Nagasaki Maru" 5500 Gross Tons Each : Speed 21 Knots PASSAGE TARIFF

Ⅲ. 上海地図

<1932>

14. 上海東部方面地図

上海紡織株式会社編成

昭和7年2月7日

15. 上海市街図

小林又七

川流堂（東京）

昭和7年2月10日

15銭

16. 上海 楊子江東部一般図

『報知新聞』第19789号附録

昭和7年2月11日

◆附：南京（江寧）／河南（洛陽）

17. 時局上海市街要図 長江流域要図

帝国在郷軍人会本部（東京）

昭和7年2月15日第10版

18. 吳淞上海附近要図

帝国在郷軍人会本部（東京）

昭和7年2月20日

◆上海附近一覽図（10000分の1）／吳淞附近要図（8000分の1）

19. 最新上海市街地図

日下伊兵衛（大阪）

昭和7年2月25日

[注]：日下伊兵衛は、「著作印刷兼発行者」。

◆附：上海附近図

20. （最新調査）上海市街図

森田義春

九段書房（東京）

昭和7年2月25日第3版

30銭 袋入り

◆附：南京・蘇州・武昌・漢陽・漢口各市街及び上江沿岸

21. 上海市街図

兵用図書株式会社（東京）

昭和7年2月 20銭

22. 上海市街図

松村好文堂（東京）

昭和7年3月1日

◆附：上海附近図

23. 上海附近要図 15万分の1

小林又七

川流堂(東京)

昭和7年3月1日

◆呉淞附近要図／上海市街図(67000分の1)／楊子江附近一般図(100万分の1)

24. 最新上海地図 12000分の1

『大阪朝日新聞』第18076号附録

昭和7年3月5日

◆附；バンド写真／支那中南部略図

25. 上海新地図 時局地方支那地図

財藤勝蔵

十字屋(大阪)

昭和7年3月10日

26. 上海交通線路図

『新上海』(「I-92」)所収。

<1935>

27. 上海港 PORT OF SHANGHAI 10000分の1

水路部

昭和10年3月20日

◆雑用海図；第1 呉淞至高橋港／第2 高橋港至楊樹浦／第3 楊樹浦至鰻鯉嘴

28. 上海市街地図

『大上海 要覧・案内』(「I-106」)所収。

29. 大上海港地図

SHANGHAI HARBOUR

『改訂増補 上海港』(「I-107」)

附録。

IV. 上海関連本

<1932>

49. 上海に於ける太平洋会議

那須 皓

太平洋問題調査会(東京)

昭和7年5月15日

四六版 237頁 80銭

[注]：那須皓は「編輯者」。

◆[浦松佐美太郎] 会議の経緯；上海へ10-14／太平洋会議開かれる14-17／[高柳賢三] 上海の将来173-187

[参考]：『言語』

50. 支那及満洲旅行案内

後藤朝太郎

春陽堂(東京)

昭和7年5月15日

四六版 1270頁 図版

4円50銭 函

◆民衆娯楽所；跑馬場の人気294／逸園の競犬 294-297／競馬場の模様308-309／上海の湖心亭

316-323/租界の大世界・四馬路の雑踏323-325
/公園；上海の公園337-340/紅灯街；ダン
スホール360-362/サボイホテル362/マゼステ
イツクホテル363-364/カルトンカフェ364-365
/四馬路の紅灯街369-373/三馬路の青楼373-
376/上海の芸者名384-404/土産物；上海の呉
服424-425/パーミット；虹口の通関屋436-
439/南支那；上海713-779/上海の郊外779-
781

51. 中国年鑑

濱田峰太郎

上海日報社調査編纂部
(上海白保羅路3, 4号)

昭和7年10月10日

四六版 450頁 1 弗50仙

[注1]：濱田峰太郎は、「編輯兼発行者」。

[注2]：印刷所は、蘆澤印刷所(海寧路14号)。

◆金融263-280/貿易300/商業, 物価
306・309-312/工業344-345/鉄道, 道路,
航運371-373/労働問題395-396/中国便
覧420-428

<1933>

◎ 満蒙から上海へ

小松謙堂

玲文社(東京)

昭和8年2月10日

◇増補改訂版(「IV-49」)奥付による。

52. 満蒙から上海へ

小松謙堂

玲文社(東京)

昭和8年6月20日増補改訂

四六版 1191頁 3 円90銭 函

◆第十二編 上海概観716-786；上海/上海
の風俗/上海の位置/衛生的施設と教育/居留地
域の章程/上海と戦禍/上海変遷の跡

[参考]：『言語』(「文社」は誤記)

53. 隨筆 支那叢話

入澤達吉編

大畑書店(東京)

昭和8年8月15日

四六版 407頁 1 円80銭 函

◆[虚心窟主人] 支那の思出50-68/[東
翠生] 上海雑話260-269

54. 支那叢話(第二輯)

入澤達吉編

大畑書店(東京)

昭和8年12月20日

四六版 404頁 1 円80銭

◆[無平学人] 滬上雑俎134-155

<1934>

55. 上海から北平へ

中山正善

天理教道友社(奈良)

昭和9年3月26日

菊版 427頁 図版・表 カバー 函

[注]: 定価記載なし。

◆自序2頁／おことわり3頁／目次2頁 〓 上海13-72; 上海・上海とは・街店・天理教伝道庁と伝道社・図書館と学校・伝道事業と宗教的行事・図版6頁／プロテスタント瞥見75-100; 中華全国基督協進会・アメリカ海軍基督教青年会・中国基督教青年会館／徐家匯雜記103-142; 位置及び沿革・現在の組織; 徐家匯略図117・図版4頁／旅行日程表5頁

*「自序」:「上海から北平まで旅行したのは昭和五年の春であつた。日支関係も今日の如き姿の一步手前にあり, 親善友誼の交際も旅行する人にはまだ可能の如く思はれてゐた時分なのだ。華やかな開港場上海の閘北には日本人も相当仲よく華人の間に雑居してゐたし, クリークの如きも閑かな郊外としての江南を思はすのみで, 血の臭ひのせなかつた頃だ。／併し, 上海事変後の今日に於ては, その頃の触れ物に臨みての紀行文は, 最早陳腐な世迷言であるかも知れない。と云ふのは, 当時, 見たもので今は亡んで姿を消してゐる所も多いのだから。併し, 私にとつてはやはり懐しいものであるから, 一先づ今日までのものを纏めて一冊にして出版する事にした。／欧米文化を吞吐する上海は新支那の縮図であつて, 私の頭に描かれたが如き支那の一都会ではない。又上海を見て来た眼には, 北平はあまりにも博物館的存在の如く感ぜられた。而も, 以前に訪れた北京時代の姿と比較しても余程の寂れ方の様である。此点支

那の時代潮に逆航して見物したものと云へよう」。

[参考1]: 養徳社(奈良)改訂再版(昭和21年10月26日, 395頁, 40銭)あり。

[参考2]: 『中支』(支那一般/紀行):「天理教管長の旅行記として異色あり」。『言語』

56. 支那租界論

植田捷雄

巖松堂書店(東京)

昭和9年9月25日

菊版 264頁 2円30銭 函

◆長髪賊の乱の影響17-20/五三事件の影響47-48/上海会審門128-130/上海会審門の回収130-133/滬法院協定133-134/回収後の実情134-136/上海外国租界における諸問題150-192

<1935>

57. 上海から巴蜀へ

神田正雄

海外社(東京)

昭和10年11月25日

四六版 364頁 図版 1円50銭

◆上海の発展1-10/上海の印象187-198

〓 附録: 日清汽船会社の沿革と現況341-348

[参考]: 『中支』(中支那一般/地誌・紀行)『言語』

<1936>

58. 渡支記念 上海訪問

今井豊雲（平三郎）

豊雲脈学研究所出版部（大阪）

昭和11年8月1日

菊版 38頁 函版・地図 非売品

[注]：今井平三郎は「編輯兼発行者」。

◆ [中井三治] 今井豊雲先生の上海行10－
15／漢方医界の現状33－37

59. 支那

山本實彦

改造社（東京）

昭和11年9月11日

四六版 429頁 函版 2円 函

◆ 上海131－199；埠頭・ホテル・暗殺／秘密
結社／上海の夜／鼻／功德林／二・二六／上海か
らSへ

[参考]：『言語』